船上山（茶園原）歴史と景勝の山「大山隠岐国立公園　船上山」

大山の古代の外輪山である船上山（615 m）は、約 100 万年から 40 万年前に起きた噴火により形成された。山の頂上は比較的平たいものの、東、西、北腹は高さ 100 メートルを超える急崖となっている。東の崖は特に冷えた火山岩が垂直に折り重なっており、「屏風」と呼ばれる表情を見せている。頂上南には船上滝と呼ばれるふたつの滝が尾根へと流れている。雄滝はより高い落差109 m、雌滝は90 mと低く、これらは昔より対であると考えられている。

 ブナ、トチノキ、マツ、ケヤキ、ミズナラ、アラカシが山頂を覆っている。この種組成は移行帯を特徴づけている。高度が低い場所では常緑樹の森が見られるが、標高 600 メートルから 750 メートルにかけて徐々に葉の大きな落葉樹林へと変わる。

 東側の断崖の下には茶園原という草に覆われた斜面が広がり、この場所は希少なサンコウチョウやクマタカが見られる重要な生態系である。森が広がることを防ぎ貴重な草原の生物を守るために、3 年ごとに野焼きが行われている。